

第5学年 教科「おおたの未来づくり」学習指導案

1 単元名 「わたしの街のすてきな場所」【B 地域創生】(35時間)

2 単元目標

児童一人一人がカメラを持ち、街のすてきと思う場所を見付け、写真撮影をしたり、出会った人々に取材をしたりする活動を通して、矢口地域を笑顔にするためというコンセプトを理解し、自分たちでできることを考え、相手意識をもって主体的に取り組むことができるようにする。

3 単元の評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
コ ン セ プ ト	①地域の人々の意識に立ったコンセプト設定の意味を理解し、それに必要な内容・方法に関する知識及び技能を身に付けている。	①必要な撮影場所や、撮影・取材の方法を考え、情報を整理・分析して、試行錯誤してコンセプトを設定している。	①様々な人との対話を大切にし、撮影や取材に行く上でのアイデアを出し合うことでコンセプトの設定にすすんで取り組んでいる。
デ ザ イ ン	①コンセプトに基づき、地域の人々に受け入れられる取組を企画するために必要な知識及び技能を身に付けている。	①コンセプトに合った撮影場所や、撮影・取材の内容、対象、方法等を考えることをきっかけとし、さらに地域の人々に受け入れられる取組みを企画している。	②進んでアイデアを出し合い、よりよい企画するために持ち味を生かして協働し、粘り強く取組もうとしている。
ク リ エ イ シ ョ ン	③すてきな場所の写真やポスター等を発信するために必要な知識及び技能を身に付けている。	③様々な人からの評価等を整理・分析し、試行錯誤して、資料作成や提案・実践の準備などを行い、相手意識に立って発信している。	③進んでアイデアを出し合い、協働しながら粘り強く取組むとともに、様々な人からの評価等を受け止めて、取組を振り返り、価値や改善点を見いだそうとしている。
共 通 事 項	④ICTを活用した情報収集・調査・統計資料作成に関する知識及び技能を身に付けている。	④効率性や分かりやすさ、持続可能性等の視点をもってICTを効果的に活用している。	④モラルや他者意識をもってICTを活用しようとしている。 ⑤ICTを他者との協働や振り返り、取組みの改善のために活用しようとしている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

本校のある矢口地域は、多摩川や、神社を中心とした商店会や町工場があり、長い歴史があるが、商

店街にはシャッターが下りているお店もある。そうした背景もあり、数年前から校長が掲げる「矢口地域を笑顔にする」というプロジェクトに取り組んで3年目を迎えた。本学年の児童はそのプロジェクトで3年生の時に武蔵新田商店会を盛り上げるためのフラッグづくりを行い、東京都から表彰された経験もある。(R6年度社会を明るくする運動)そこで、さらに矢口地域へと対象を広げ、地域の人に街のよさを知ってもらうことで、笑顔とあたたかさあふれる矢口地域を創生することを考えて行動できる児童を育成したいと考え、本単元を設定した。

(2) 授業パートナーの連携

NPO 法人ヴォイスやキヤノン株式会社の方々と連携し、カメラの扱い方や被写体の魅力を引き出す撮影の仕方を学ぶ。メールや電話を使って指導内容を共有したり、教室で児童が撮影した写真にアドバイスをいただいたりする。授業パートナーからの助言をもとに撮影した写真を振り返ることで、展示する時により地域の人を笑顔にできる写真を選定することができることを期待する。

また、撮影した写真やそのデータを活用して矢口地域を笑顔にするという活動に賛同していただいた「みしまや」を始めとする武蔵新田商店会、「いずみえん」などに写真を掲示していただいたり、PR活動をさせていただいたりすることで発信する機会を増やす。

(3) 学習過程

「コンセプト」では、「みしまや」と「いずみえん」から矢口地域を盛り上げる写真を撮影してほしいというビデオレターをもらう。その上で、実社会で活躍するNPO 法人ヴォイスやキヤノン株式会社の方に来校していただき、カメラで写真撮影をすることの面白さや可能性を講話していただき、どのようにすれば矢口地域の魅力を広報することができるか考える。

「デザイン」では、児童一人一人がキヤノン株式会社からカメラを貸していただき、実際に街に出て写真を撮影する。撮影した写真は写真家に見ていただき、専門的な知識や技能に関する助言やアドバイスをいただく。また、撮影した写真を使って、地域を盛り上げるための活動について考える。例えば、写真展を開く、ポスターやカードにして地域で配布する等の活動が考えられる。

「クリエイション」では、試行錯誤して選定した写真にコメントを付けた拡大写真を作成し、各展示場所に展示する。展示場所にアンケート用紙を置き、写真を見た様々な人々からフィードバックをもらうことができるようにする。アンケートの結果を整理・分析し、まとめることで取組に対する価値付けができるようにする。また、撮影した写真データを活用した作品(ポスターやカードなど)を作成し配布することで、より多くの人に見てもらえるようにし、配布に協力してくださった方や受け取ってくれた方からのフィードバックをもらうようにする。

5 児童の実態

本学年の児童は第4学年時には、総合的な学習の時間に福祉の学習で「いずみえん」の高齢者との交流を行った。高齢者の方々のために自分たちにできることは何かを考えた上で、合唱を披露した。

その「いずみえん」や「みしまや」の方からの依頼を受けて、矢口地域の写真を撮るといった活動からスタートする。写真の撮影を通して、児童が見つけた地域の魅力やよさをもっと多くの人々に知ってもらうことで、笑顔とあたたかさあふれる矢口地域を創生することにつなげていきたい。

課題を理解すると、それについてインターネットや図書資料を活用して必要な情報を収集したり、ク

ロムブックを活用してまとめたりする等、ICTを活用する技能は身に付いている。また、必要に応じて授業パートナーや地域の人とコミュニケーションをとろうとする意欲は高いものがある。一方で、児童が自ら課題を見いだす姿勢や、情報を整理・分析して大事なキーワードを捉える力、自分たちでどうすればよいかをよく考えてから行動することには課題が見られる。

このような児童の実態を踏まえ、「みしまや」を始めとした武蔵新田商店会や「いずみえん」などを始めとした矢口地域を笑顔にすることを目指す。本単元を通して、人々を笑顔にするために自分たちにできることは何かを考えること、また、笑顔にしたい対象の存在を意識すること（相手意識）を大切にしていける。さらに、授業パートナーや地域の人と関わることで、多面的な視点をもって課題を考えたり、主体的・協働的に解決したりする力を養いたい。

6 指導の手だて

(1) 地域の人や専門家と交流する場の設定

学校外の他者とコミュニケーションをとる場を多く設定することで、地域の実態に即した課題を見だし、対話によるコミュニケーションのよさを実感できるようにする。写真撮影だけでなく取材することで、児童が同じ場所に何度も足を運び、季節による変化に気付いたり、その場所に愛着をもったり、対話のよさに気付いたりすることができるようにする。写真展示に関わった専門家や、写真撮影にご協力いただいた施設やお店、また写真展や発表を見てくださった多くの方にアンケートを取って、結果を整理・分析することで、多面的な視点から自分たちの活動を振り返り、次の学習に生かせるようにする。

(2) 拡大写真とそのデータを活用した地域の創生

児童が撮った写真を大きな写真（A3サイズ）で印刷する（キヤノン株式会社に依頼）ことで、より多くの人々の目に触れることができるようにする。また、その写真にコメントをつけ、掲示してもらう場所を広げていくことで地域の創生を目指す。どこに貼ってもらうのか、どんなメッセージをつけるのかを考えさせる。また、お気に入りの一枚の写真データを活用したり（ポスターやカードなど）、それをきっかけに追加で取材をしに行ったりすることで活動を深化させる。

(3) 授業パートナーとの事前打合せ

地域からの要望に応えるための取り組みであることを児童にも実感できるようにするため、単元の導入として、武蔵新田商店会長の「みしまや」と「いずみえん」に写真撮影の依頼動画を撮影させていただく。その後、NPO 法人ヴォイスや、キヤノン株式会社と打ち合わせを行い、児童が何度も地域を訪れられるように、カメラを一人1台キヤノン株式会社から貸与していただく。写真の撮り方や被写体についての講演、カメラの使い方を教えていただき、撮影の練習を行う。その後、数回来校いただき撮った写真についての指導やアドバイス、写真の選定相談会を行い、児童の相談にのっていただく。お気に入りの写真を選定した後は、地域の創生のために効果的なコメントについてのアドバイスをいただく。

また、お気に入りの写真をもとにグループをつくり、どうやって写真を活用するか、その写真データを使ってどんな活動ができそうかを話し合い、児童の考えによっては新たな授業パートナーへの協力も依頼する。

(4) ICT等の活用

- ・オクリンクプラス…コメント作成、児童同士の情報共有、アンケート結果のまとめ、振り返り等を行う。
- ・Google Forms…アンケートの作成、結果の閲覧に使用する。
- ・Google スライド…プレゼンテーションのための資料作成を行う。

7 指導計画

教科	時	○主な学習活動・児童の反応	◇評価(教科「おおたの未来づくり」)・留意点
総合1	1	<p>【ガイダンス】 <u>おおたの未来づくりについて知り、活動を見通そう</u> ○おおたの未来づくりの教科書を活用し、おおたの未来づくりについて知る。 ・おおたの未来づくりには「ものづくり」と「地域創生」があるんだね。 ○総合的な学習の時間及びおおたの未来づくりの活動の見通しをもつ。 ・ウェルビーイングな矢口地域を作りたい。 ・地域の人を笑顔にしたい。</p>	
国語2 総合1 社会1	2～5	<p>【コンセプト】 <u>依頼に応えるために、写真で人に伝えるプロの話を聞こう</u> ○「矢口地域を笑顔にする」写真を撮影してほしいという依頼を受け、どうすればよいか考える。 ・商店街の人の笑顔の写真を撮りに行く。 ・きれいな多摩川の景色を見せたらどうかな。 ・撮るだけじゃ意味がないから写真展を開かなきゃ。 ○元読売新聞記者やキャノンの方からカメラの撮り方や画角について学ぶ。 ・アップとルーズで撮ることのよさや写真を撮る時に視点を変えることで、写真を見る人の印象が変わるな。 ○写真の撮り方を学んで、考えを深める。 ・お気に入りの場所をどのように撮ったらいいかな。 ・印象づけられる撮り方はあるかな。</p>	<p>◇知①・主① ・写真の撮り方を習得し、学んだことや今後生かしていきたいことをワークシートにまとめる。</p>
国語2 社会1 総合3	6～11	<p>【デザイン】 <u>写真を撮りに行こう</u> ○地域の魅力が伝わるような場所を見つけて写真を撮ったり、地域の人にインタビューをしたりする。 ・いつも行っている公園の中に、こんなすてきな花や木、生き物がいるんだ。 ・お店をやっている大変なことはありますか。また、やりがいとはどんなことですか。 ・一度撮ってみただけで、他の人の写真を見てみたらもう一度撮りにいきたいな。</p>	
国語2	12～13	<p><u>写真の飾り方を考えよう</u> ○その場所のよさを知ってもらえる写真を選定し、その場所の魅力が伝わるコメントを加える。 ・場所の魅力が伝わるように掲示する場所を考えよう。 ・写真を見ただけではわからないことを言葉で伝えよう。 ・いつも遊んでいる公園や地域のよさが伝わるようなコメントを考えよう。 ○写真やコメントを横山氏に確認してもらい、アドバイ</p>	<p>◇知②・思②・主② ・自分がこの写真を通してどんなことを伝えたいか写真と一緒に掲示する文章を考える。</p>

		<p>スをもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • もっと具体的にコメントを書くと場所の魅力が伝わりやすいな。 	
総合2	14～15 本時	<p><u>写真データを使って矢口地域を笑顔にする方法を考える</u></p> <p>○写真データを使ってもっと矢口地域を笑顔にする方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 写真を入れたチラシを作って町で配ろうよ。 • スライドに写真や音楽をつけて、動画を作りたい。 • 写真を入れたグッズを作って、配ってもらおうよ。 	<p>◇主②</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンセプトに合った方法になっているかよく考え、すすんで話し合いに参加する。
国語2	16～17	<p>【デザイン】</p> <p><u>自分たちが考えた矢口地域を笑顔にする方法を提案する</u></p> <p>○自分たちの考えた方法を「みしまや」や「いずみえん」の方に提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> • 70祭に来て私たちの撮った写真を見に来てもらえるようにチラシを置いてくれないか。 • 僕たちの撮った写真を集めたスライドを店内で流してくれないか。 • 写真で作ったポストカードを置いてくれないか。 	<p>◇知③④・思③・主③④</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分たちの考えたアイデアを伝え、評価していただいたことをもとに新たな取り組みを行う。
図工3 社会1 外国語2 国語1 総合1	18～25	<p>【クリエイション】</p> <p><u>自分たちが考えた矢口地域を笑顔にする方法を実践する</u></p> <p>○「みしまや」や「いずみえん」からの助言をもとに、自分たちの考えた方法を実践する。</p> <p>○実践してみたことに対する振り返りをもらい、今後につなげる。</p>	
総合2	26～27	<p>【クリエイション】</p> <p><u>地域の人から展示物を見た感想をもらおう</u></p> <p>○写真を展示したことに対する感想をもらい、学校外に展示する時にいかす。</p> <p>～地域の人感想～</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実際に知らなかった場所を知ることができてよかった。 • もっとたくさんの写真を展示してほしい。 • 飲食店、自然、工場などで分けて展示しても面白い。 	<p>◇主③</p> <ul style="list-style-type: none"> • 保護者、地域の人からの意見を受け止める。
総合3	28～30	<p><u>自己評価や地域の人感想をもとに、今後より良い活動にするための方法を考えよう</u></p> <p>○自己評価を行うことで、今後の学習につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • もっとインタビューする時に、何を聞か整理すればよかった。 • どの場所にどの写真を置いた方がよいか自分達でレイアウトを考えられるといいね。 • 商店街の掲示板に載せるともっといろいろな人が見てくれるかもしれない。 • 来年度の4年生にも伝えられることはないかな。 	<p>◇知③④・思③・主③④</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分達の取り組みを振り返り、価値や改善点を見いだす。
総合2 家庭科2 外国語1	31～35	<p><u>1年間の活動内容を、4年生に伝えよう</u></p> <p>○相手意識をもって発表できるように、内容を考えて、発表準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スライドを使って発表したいな。 • 家族に団らんの中で、発表内容を聞いてもらおう。 <p>○発表して感じたことや次への活動につながることを振り返ろう。</p>	<p>◇思④・主③⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> • 様々な人からの意見を整理・分析し、4年生に「何を残していきたいか」「どんな表現だったら伝わるか」考えながら資料を作成する。

8 社会で活躍する人との連携

企業名	依頼内容	資質・能力の育成に期待できる効果
NPO 法人 キヤン株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・写真の魅力を伝える講話 ・写真の撮り方の指導 ・撮った写真の公表、アドバイス 	<p>写真を撮ることを通して地域のよさに気付いたり、多面的な視点をもって課題を考え主体的・協動的に解決したりする力を養いたい。</p>
地域のお店や工場、矢口中学校など	<ul style="list-style-type: none"> ・写真撮影許可 ・取材活動の協力 ・撮った写真やコメントに対するフィードバック ・写真展示 	<p>相手意識をもって関わる力を養う。</p>

9 本時の指導（全35時間中の第14時）

（1）目標

お気に入りの写真データを活用して、さらに「矢口地域を笑顔にする」方法をすすんで考えることができる。

（2）展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】（方法） ★指導の手だて ※指導上の留意点
導入	○前時の学習を振り返る。 ・お気に入りの写真にコメントをつけて、校舎内に飾る準備ができたね。 ○本時のめあてを立てる。	★自分たちの活動を振り返る際に、単元の目的を明確にすることで、ゴールイメージをもたせやすくする。 ★他の児童の写真を見ることで、より多くの写真を見るのが笑顔につながることを実感する。
	写真のデータを使って、「矢口地域を“もっと”笑顔にする」方法を考えよう	
	○本時の学習活動の流れを確認する。	※指導者はファシリテーター役となって、「何をやるのか」「どうやってやるのか」を明確化できるようにし、自立的な学びを促す。
展開	○自分が撮った写真データを見ながら、それをどう使うか考える。 ○他の人の意見を見て、「矢口地域を笑顔にするため」という目的をより達成できそうな方法について話し合う。	※写真のデータを使えばどんなことができるのかを児童から出させ、イメージをもたせてから活動に取り組ませる。 出なかった場合には過去の作品（スライドや動画など）を紹介する。 ★他人との意見交流をスムーズに行うために、オクリンクプラスに記入させる。 ※実現できそうか、より多くの人に見てもらえそうかといった視点から、お互いの意見について交流する。 ◆【主】③（オクリンクプラス・話し合い活動の観察）
振り返り	○めあてを達成するために努力した点や工夫した点、次回に生かしたいことを振り返り、ワークシートに記入する。	※今回は自分の学級の意見のみについて話し合ったが、次回は他の学級で出た意見も集約して、学年としての意見にまとめていく。

10 視点

- ・本時の話し合いは「矢口地域を笑顔にするため」という目的意識にそっていたか。また、「矢口地域の人々のため」という相手意識をもたせるために発問や板書は有効だったか。

1.1 授業者自評・協議

自評

- ・誰を笑顔にするのかという「相手意識」をもたせるために、単元の導入に「みしまや」と「いずみえん」に写真撮影することを動画で依頼してもらった。
- ・写真データを活用してできることを考えるという活動だったが、教師が想定していたよりも多岐に渡る意見が出た。この意見を今後どう集約していくべきかに悩んでいる。
- ・ICTを使用することで、普段発言できない児童の意見を取り上げることができた。

協議

- ・目的意識をもって話し合いを行うことはできていた。しかし、教師と子どもたちの話し合いの時間が多く、もっと児童同士の話し合いが活発に行われるとよかった。
- ・いろいろな方法が意見として出たが、「誰のために」という視点が足りていない学級もあった。多様な意見を出すことがねらいではあったが、多様になりすぎて、今後どう絞るのか検討する必要がある。
- ・方法だけを言わせているクラスと、それを選んだ理由を話しているクラスがあった。目的意識や実現可能性を大事にするのであれば、理由まで話させたかった。
- ・自分の意見→ペア→集団での話し合いという流れを踏んでいるクラスは意見が広がっていた。

1.2 指導・講評

① 多摩川小学校の研究の「ウリ」

工夫している所、力を入れている所を出し合って共有していくことが大切である。自分の考えをもつからこそ友達との意見を共有したり、比較したりしたいと思う。さらに大田区に還元して行ってほしい。(トライ&エラーを繰り返しながら)

② 本单元について

単元目標から地域を知る、地域を愛するは見つけられたが、「地域に貢献する」とはどこのかを考えたい。指導計画も然り。→教師が意図的にそこを考えて作ってあるのか。単元全体を通じての問題解決である。児童は見通しをもっていけば主体的に活動することができる。活動の見通しと振り返りそこから次にどのようにつなげるかを児童が考えられているのか。厳しい言い方を敢えてすると、今日の話し合いは児童には無理だったと思うが、よく頑張っていた。例えば、写真を飾る→大好評だった→いずみ園の人が見に来たいけれど、見に来られないって→では、どうするか?という展開も考えられる。手だてが本当に手だてだったのか。目的と混同していなかったか。ICTの活用とは具体的にどのようなことか。地域の創生は手だてになるのか。手だてはもっと絞っても良かったのではないか。地域と連携出来ているだけでも十分手だてと言えるのではないか。

③ 本時について

児童が様々な意見を出していて、実現可能かどうか考えられている児童がいた。(1組)タブレットをストップした、共有しているホワイトボードの字が小さくて見えにくかったのが残念だった。(2組)自由にさせる、4年生に学習したことを参考にアイデアを出している子どもがいた。(3組)話し合いを通して意見が変わった児童がいたのが良かった。(4組)どのクラスも次の授業で何をするのかを多くの児童が分からなかった。見通しをもてていなかったのが課題。